

二 俣 線 建 設 概 要 豊 橋 線

鐵道省熱海工事事務所長 川 口 利 雄

今から約千年前平安朝の初期、京より東への道はこの二俣豊橋兩線が通過する邊りを行つたものらしい。即ち濱名湖の北岸を山添に3ヶ日、氣賀を経て天龍川を渡り二俣町に出づるものである。沿線に傳はる坂上田村麿將軍の口碑や附近一帶には貴人の墳墓と思ほしき古墳の散在するに徴しても明かである。

斯様にその昔交通の要衝に當つたこの地方も何時の頃からか東海道にその繁榮を奪はれ裏街道と稱はれ、明治の世に入り新橋、横濱間に敷設された鐵道は歳と共に延長され濱松を通じ、濱名湖の南岸を行くに至つて全く世から忘れ去られてしまつたが、大正11年には二俣線が、昭和8年には豊橋線が鐵道豫定線に夫々編入され二俣線掛川、二俣間は大正12年第四十六議會、豊橋線二俣豊橋間は昭和8年第六十四議會の協賛を経て、初めて敷設確定を見たのである。

二俣線は大正15年7月岐阜建設事務所所管の下に測量を初め、昭和7年當熱海工事事務所の前身熱海建設事務所に移管されて同8年3月掛川方より着工した。土木工事は全線を六區間に分割し、元光明電氣鐵道株式會社線の路盤を一部買収し之を改築する工事と天龍川橋梁工事とは直轄で、其の他は請負により施行して昭和10年4月先づ掛川、遠江森間を開業した。

豊橋線は昭和8年4月當所々管の下に測量に着手し、全線の土工工事を七工區に分け豊橋方より昭和9年6月着工し第五工區氣賀、宮口間の直轄施工を除く他は請負に附したのである。昭和11年12月新所原から三ヶ日迄を次で同13年4月金指迄を夫々開業し、今回二俣線は遠江森西鹿島間を、豊橋線は金指、西鹿島間を開業した。兩線を通じ隧道12箇所橋

梁六十餘で着工以來七ヶ年の日子と總工費八百拾六萬圓餘を要してここに兩線の全通を見るに至つた。

沿線一帶は濱名湖に接し、天龍川に跨り氣候溫和、地勢概して平夷、古くより交通展け名所舊蹟多く人口稠密にして各種産業發達し、繭、製茶、疊表、柑橘、濱名湖の水産物等産出夥しく、又天龍川奥地の木材産出高は年々數拾萬石にも達し、鑛物の産出も尠くない、本線の開通は當に之等産業の發達を促すばかりでなく天龍川筋の水力開發を促進し、東海道本線の補助線となり軍事に産業に多大の貢獻を齎すであらふ。

二 俣 線		豊 橋 線
規 格	丙線(單線)	丙線(單線)
延 長	28軒823米25	50軒222米13
最小半徑	200米	300米
最急勾配	千分ノ25	千分ノ25
軌 條	30疋軌條	30疋軌條

名 勝、舊 蹟

大 洞 院 遠江森驛より西北約4軒

森町橋字大師林にあり、曹洞宗大本山總持寺の末寺で應永年間天閑禪師の創建に係り周智郡唯一の名刹である。附近に浪曲に名高い「森の石松」の墓がある。

小國神社(國幣小社) 遠江一宮驛より東北約3軒

一宮村宮代にあり、祭神は世に大國主命として聞えた大己貴命で今より1400年前欽明天皇の御子に草創、大寶元年文武天皇十二段の舞樂を献ぜられ今に尙之を傳ふと。元龜3年兵燹に罹り徳川家康之を修復す。明治6年國幣小社に列せらる。

天 龍 峽 遠江二俣驛より北方天龍川上流

天龍は諏訪湖に發し赤石、木曾の山系をつらぬき遠州の肥野を貫流し太平洋に入る蜿蜒實に200餘軒、流域2000平方軒に及ぶ、天龍峽は遠江中部より瀬尻に到る約20軒を謂ふ、此の間千瀬、水窪の二大支流を合し水勢益々猛り、山をつらぬき兩岸迫り、翠壁削立して白浪巖を嚙み、水勢瑟瑟として耳を聳し、豆こぼし、胸度、峽石、八間等怪石奇巖相踵いで應接に違ない。

秋葉山 遠江森驛より北約30軒
遠江二俣驛より北約20軒

秋葉山は遠州隨一の靈山で海拔 860米餘 全山老杉古檜鬱蒼として全く俗塵を離れた仙境である、四圍の展望亦絶佳、東に靈峰富岳を望み、踞には天龍の激流奇巖を嚙み氣田の清流蜿蜒として帯の如く、南に渺茫たる太平洋を望む大觀は恰も一幅の名畫を展るが如く、豪壯なる天龍下りの妙趣と相俟つて近時都人士の訪ずるものも激増した

秋葉寺(秋葉三尺坊大權現)は元正天皇の勅を奉じ行基が此の山に一寺を建立し大登山靈雲院と號したのに創まる、平城天皇の大同4年秋葉三尺坊大權現此の地に出現

し火難を鎮護し其の靈驗著しきため世の信仰翕然として集り爾來火防の神として佛教の興隆と共に一山益々榮へ靈驗千有餘年の今日に及ぶ。

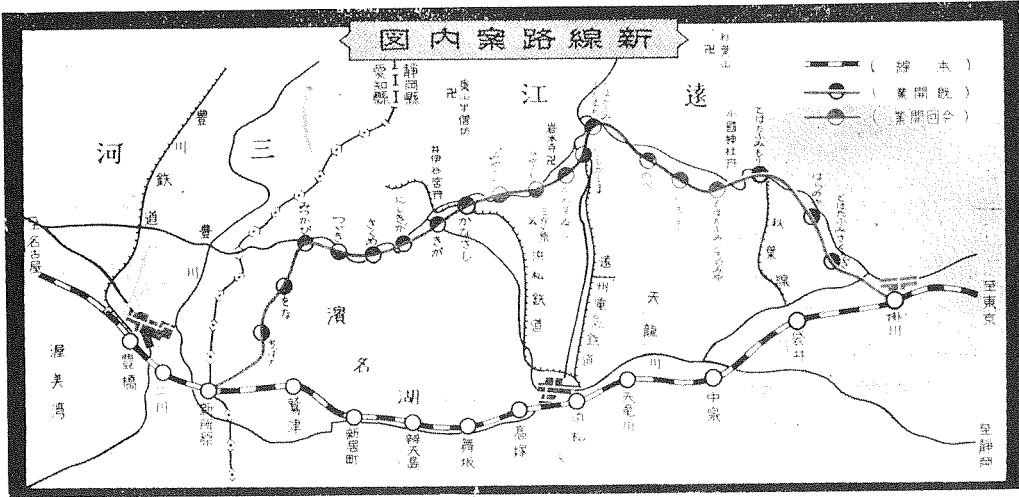
岩水寺 岩水驛より東北約1軒

赤佐村根堅にあり、聖武天皇の御代神龜2年行基の開創にかゝる、當寺の子安地藏菩薩は天龍にまつはる坂上田村麿將軍の口碑を傳へ子育ての靈驗あらたかに、遠近より參詣するもの多く、又廣大な境内は遊園地化され、春は櫻に、秋は松茸狩に行樂の客亦頗る多い。境内山腹の古墳より出土した勾玉、銅器、土器等(伊勢の徴古館所藏)は著名である。

三方ヶ原古戰場

三方ヶ原は宮口、都田兩驛の中間、縦三横二里の灌木密生せる高原である、元龜3年12月22日、上洛の機漸く熟し南下せる武田信玄と之を阻止する徳川家康と此處に合戦し、戦は申の刻(午後4時頃)、徳川方の攻撃に始まり雪中に兩軍大いに戦ふ、遂に徳川方は大敗し濱松に退陣す、されど信玄は雄圖空しく途上陣沒した。

圖1. 二俣線、豐橋線、線路圖。





寫眞~1. 二俣線掛川停車場。

井伊谷宮(官幣中社) 金指驛より西北約2軒半
氣賀驛より東北約2軒

祭神は後醍醐天皇の皇子宗良親王に坐します。親王の御身を以て南船北馬50年、御年74歳此の地に薨じ給ふ迄回天の事業に盡し給ふ。

明治2年本宮の御造營を仰せ出され同6年官幣中社に列せらる。

親王の御陵は本宮の裏にあり御遺詔により北面して帝畿を望む。

方廣寺(奥山半僧坊) 氣賀驛より北約8軒
金指驛より北約8軒

臨齋宗方廣寺派大本山にして至徳元年後醍醐天皇の皇子勅溢大茲普應聖國師の開創し給ふところ、境内廣大にして幽邃、東海隨一の大靈場として參詣者は四時絶へない。

濱名湖 西氣賀、佐久米、三ヶ日、知波田の諸驛はその湖畔にあり

東西8軒南北12軒、周圍160有餘軒、昔は淡水湖であつたが幾度かの地震海嘯のため現今は湖口今切で遠州灘と通じてゐる。沿岸には丘陵起伏して出入に富み、或は突出して半島をなし或は入りて灣を形成し其の頂は常に翠黛を湛へ山紫水明、四季を通じて其の雄大にして端麗極まりなき風光美は本邦隨一と謂ふを得べく瀬戸、館山寺等勝景の地多く佐久米は海水浴場として好適なり、又沿岸一帯には史蹟多く數多古墳散在する等あり風光を愛で史蹟をさぐるときは倦むところを知らず。

水産業亦旺んにして養鰻、養殖牡蠣、鱸沙魚、黒鯛等の産出多く中にも養鰻は本邦隨一として知られて、その販路は全國に亘る。

寫真~2. 二俣線天龍川橋梁。



寫真~3. 小國神社(國幣小社)。

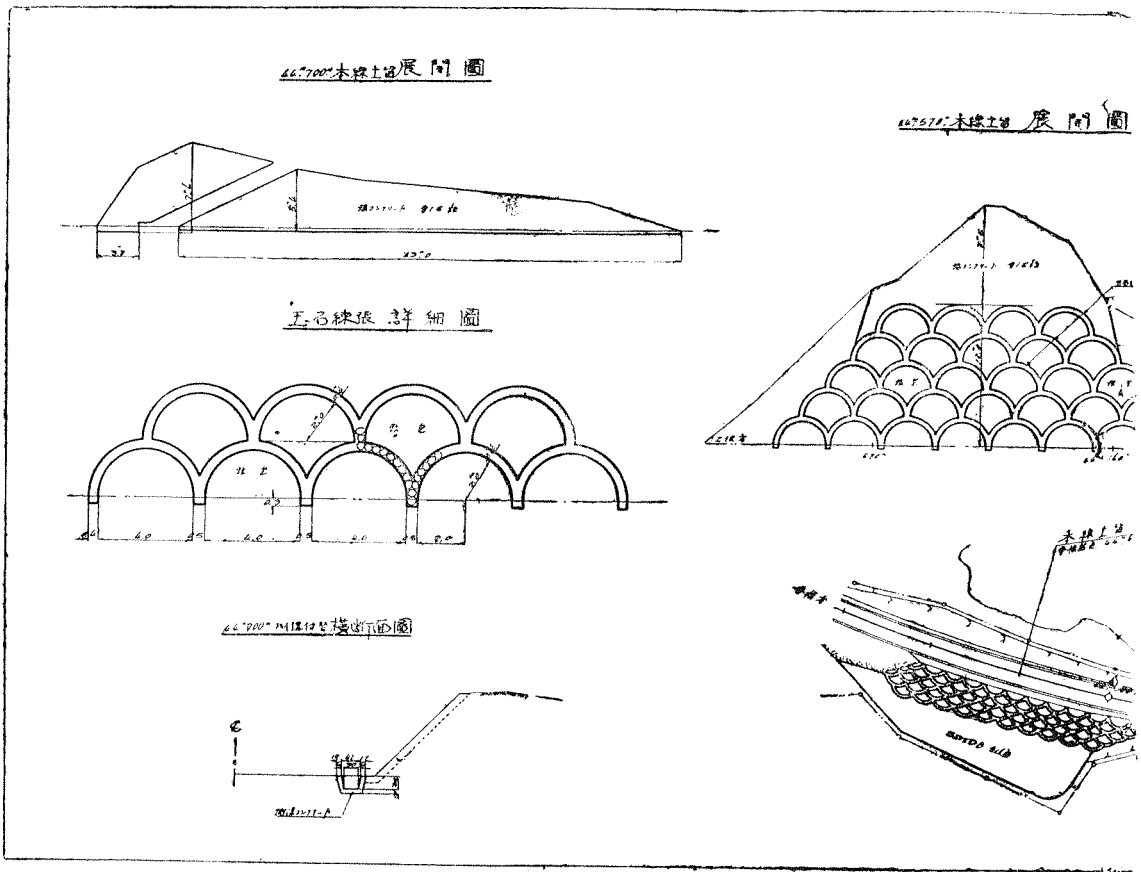
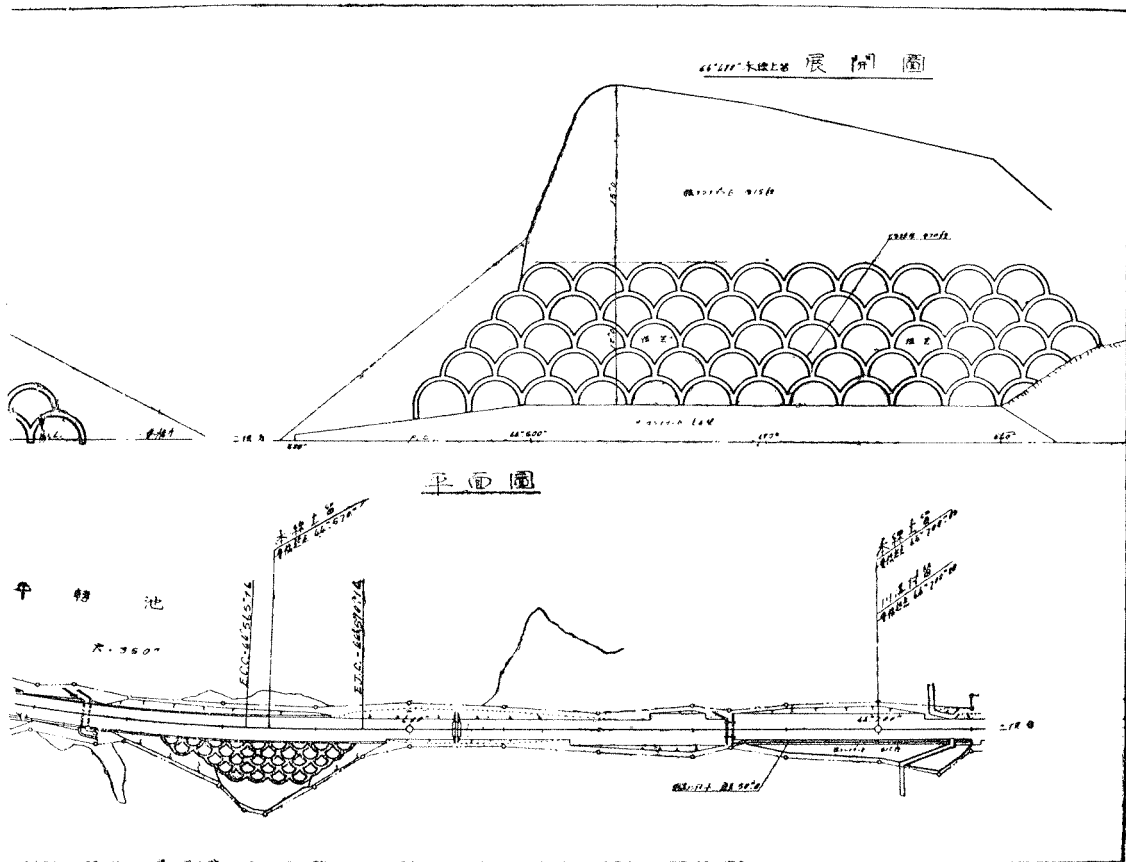


圖2. 鱗型土留工圖。

寫真~4. 二俣線遠江二俣停車場遠望。





寫真~5. 豐橋 45 籽附近線路。

